

しろがねと はくぎん

－ 白銀の読み－

| 辞書 | しろがね | はくぎん |
|----------------|--|--|
| 広辞苑 (第6版) | (1)銀、(2)銀泥、(3)銀糸、(4)しろがね いろの略、(5) 銀貨 | (1) しろがね。ぎん。また、 降り積もった雪 のたとえ 、 (2)江戸時代の贈答用の銀の延べ板 |
| 日本国語大辞典 | (1)銀、(2)銀泥、(3)銀糸、(4) 銀貨、(5) 銀色。 雪の白さなどをたとえる ことが 多い。しろがねいろ。 『落梅集』(島崎藤村)「しろがねの衾 の岡辺 日に溶けて淡雪流る」 「スキー」(時雨音羽)「山は白銀(シ ロガネ)、朝日を浴びて、すべるスキー の風切る速さ」 | (1)ぎん。しろがね。また、その色。 (2) 江戸時代の贈答用の銀の延べ板。 (3) 降り積もった雪をたどえていう語 |
| 大辞林 第7版 | (1)銀。(2) 銀貨。銀子。(3)銀糸・銀泥 など、銀で作ったもの。(4)銀色。しろ がねいろ。「 しろがねに輝く峰々 」。 | (1) 銀。しろがね。(2)しろがね色。比喩的 に「 雪 」の意でも用いる。「白銀は招く」。(3) 江戸時代の贈答用の銀の延べ板。 |
| 新明解国語辞典 第7版 | 「ぎん」の和語的表現。(狭義では、銀 貨をさした。また、古くは「しろがね」) | (1)「銀」の異称。(和語的表現は「しろがね」) (2)「 雪 」の美称。「～は招くよ」→銀世界 |

「白銀を射るや金箭」は、夜があけて太陽の光が雪山の山肌に差しはじめた情景であろう。そうであれば、意味内容が「色」である「しろがね」よりも、「雪」そのものを表している「はくぎん」の方がより適切であると考えられる。

赤字は、辞書説明で注目すべき記述

青字は、蛭川コメント。